

京都大学新聞

学芸団体
京都大学新聞社
京都市左京区西田京大橋内
(781) 2054 電話
(751) 2111 (内線2571)
FAX (761) 6095
編集・京都2-3909

号外

学生数百人

機動隊を学外に実力排除

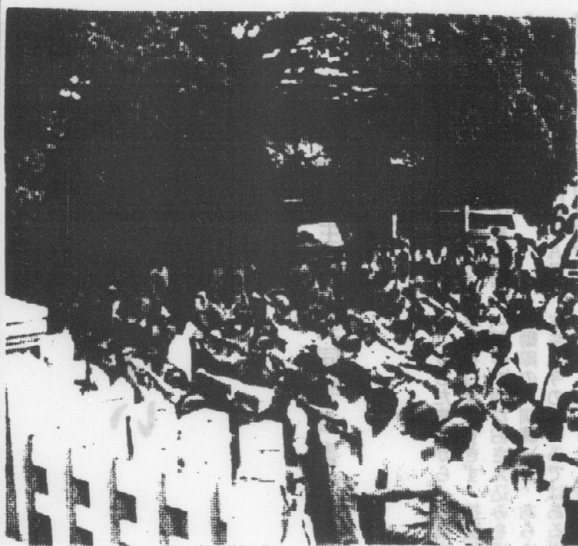
抗議の学生を不当逮捕

公安刑事が車両ナンバーのチェックも

教養部の至る所に機動隊

六月二十三日、午前八時三十分ごろ、E号館に向かう途中の中核派系学生の部隊(約二十名)が、革マル派の部隊(約四十名)に教養部図書館前で襲われた。京都府警本部は「一〇番通報を受けた」として約三百人の機動隊を教養部構内に導入し、「緊急捜査」を強行した。全学自治会学生会など学生は機動隊の学内乱入に対し、抗議行動を行ない、その結果一時五分には数百名の学生の実力行動によって機動隊は学外に追い出された。この弾圧の過程で、機動隊の乱入に抗議していた学生一人が「公務執行妨害」で逮捕されたが、同日六時ごろ釈放された。

六月二十三日、午前九時前、一〇番通報を口実に、大学当局の承認なしに制服警官や公安刑事が学内に入った。午前九時、捜査令状もないまま「緊急捜査」の名目で約三百名の機動隊が、新田教養部長の承認を得て教養部に入った。そして、尚賢館前の盛土されている部分および教養部図書館前の広範囲にわたってロープを張り、学生の立入りを禁止した。その間、負傷している中核派系の学生数人が、救急車でなく、パトカーに「任意同行」された。



▲機動隊を学生の実力行使で追い出した

同学会が申し入れ

全学自治会同学会は、六月二十七日付で総長・学生部長・教養部長に申し入れを行った。この申し入れは、以下の通り。

- 1 捜査には不必要な三百人もの機動隊導入による学生の抗議行動の規制。一人の学生に暴行を加え、テラスに押し上げ逮捕されたこと。捜査の名を借りた自走車・バイクのナンバー・名前・住所のチェック。この三点について、京都府警に文書で抗議すること。
- 2 1の抗議内容に対する京都府警、大学当局の見解を明らかにすること。
- 3 1, 2に関して総長が公開説明会を開くこと。

「公務執行妨害でパクル(逮捕)ぞ」と叫びをかけた「捜査」を続行した。この日に原付バイクを駐車していた学生に対し、今後、警察官が訪問して情報収集する可能性があるが、注意が必要である。教養部構内に導入された機動隊は、吉田生協からA号館に向かうT字路やE号館前、教養部図書館の裏などの「捜査」にまわった。関係な場所にも多数配置され、教養部の至る所にジェラルミンの盾が見られた。A号館西側の坂の所では、機動隊の学内乱入に抗議する学生のデモ隊の通行を妨害するなど、学生の活動を法的根拠もなく規制した。

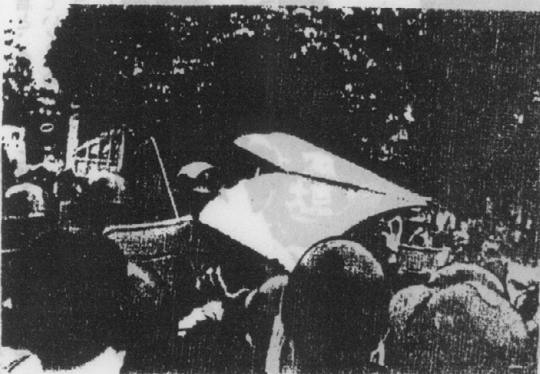


▲正午の緊急集会

十時三十分ごろ、T字路付近で機動隊に抗議していた一人の学生が、現場の機動隊の「独自判断」で「公務執行妨害」として逮捕された。機動隊は逮捕直後にその学生に集団で暴行を加えたが、この暴行は何ら罰せられなかった。この学生の不当逮捕に関して、十二時三十分には河合準雄学生部長が十六時十分には学生部長がそれぞれ一刻も早く学生を釈放するように要求する抗議電話を川端署にかけた。(この学生は同日、十八時ごろ釈放された。)



▲教養部至る所に機動隊がいた



▲盾を学生の顔面に水平打ちする機動隊

この弾圧について、新田教養部長と河合学生部長は同文の掲示を出した(別掲)。とくに河合学生部長の名の文書は京大の各部署にもすべて配布された。これは極めて異例のことである。

担当刑事は、同学会の立会人に対し「令状捜査を明日以降行なう」と断言していたが、翌二十四日、二十五日も捜査はされていない。

今回の弾圧について、河合学生部長と新田教養部長がまったく同じ文面で掲示した文書。河合学生部長の名のものは、京大各部署に配布された。

日共「民青」二セ「C自(常)」は、またもや「暴力集団は出ていけ」と繰り返して、権力による弾圧を要請している。

(2面に全学自治会書記局による文章があります)

機動隊乱入・不当逮捕に 触れない掲示

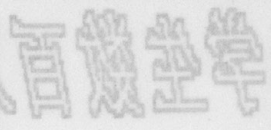
六月二三日に教養部構内において対立する集団間の乱闘により怪我人が出るという事態が発生した。おおよそ大学の構内においてこのような不祥事が生じることは、到底容認しうるところではない。このような事態が今後発生することのないよう、ここに厳重な警告を発するものである。

昭和六三年六月二三日

京都大学学生部長 河合準雄

彼岸の弾圧はありえない

全学学生自治会同学会書記局



六月二十三日午前九時、五月三十日に引き続きまたもや京都府警一機動隊三百名(現在動員しうる最大員数である!)が、教養部構内に乱入した。

この間の一連の弾圧は、学内への警察権力介入を「個」の弾圧として、または、弾圧一般として語ってはならないだろう。個々の弾圧は、その状況にあわせて、闘うものを国家暴力で弾圧するだけではない。弾圧対象とされた人々を社会的に孤立・分断させることにより、彼ら・彼女等を弾圧することをもた、必ずあわせているのだ。

さらに八個々Vにとどまらず、弾圧を受けた個々を引き継いで闘おうとする人々にも、また、直接には関係をもっていないと将来つなげていく可能性を備えた運動(すべての変革へ向けた試みに他ならない)を担っている人々にも、そうした運動へ立ち上がったいく可能性をもたすすべての人々に対しても、八十把一からげVに拡大していくものなのである。

それ故、弾圧に彼岸はなく、我々に必要なのは八個々Vの弾圧のなかで敵が意図することとを分析し、反撃の道をさぐることであり、反撃の契機を提示してみたい。

以下、今回の弾圧のもつ意味を出来る限り具体的に追いついて、我々の反撃の契機を提示してみたい。

1 今回の弾圧でまず注目すべきは、「捜査」を担当する部隊と機動隊「および公安刑事の見事な逆の『任務分担』である。

「捜査」部隊は正門・図書館前

六月二十三日午前九時、五月三十日に引き続きまたもや京都府警一機動隊三百名(現在動員しうる最大員数である!)が、教養部構内に乱入した。

この間の一連の弾圧は、学内への警察権力介入を「個」の弾圧として、または、弾圧一般として語ってはならないだろう。個々の弾圧は、その状況にあわせて、闘うものを国家暴力で弾圧するだけではない。弾圧対象とされた人々を社会的に孤立・分断させることにより、彼ら・彼女等を弾圧することをもた、必ずあわせているのだ。

この間、「あなたの隣にも過激派が!」「不審な人物を知っている!」「善い市民のふりをして(過激派の)活動しているかも」といったキャンペーンが、繰り返してはられている。

日常的な弾圧は、アパートや下宿への聞き込み、上記の「過激派」キャンペーンと常に連動している。運動のシンパサイザーへの機がらせやスパイ強要だけでなく、運動とは関係がない人々へあなたかもしれない!への警察に対する情報提供、協力を「自然」な形で押しつけてくるのである。

「過激派」狩りの『善意の協力者』・『無邪気な権力の共犯者』として、変革を求めより自由に生きていく自らの人未来を自ら縛り殺していくことを「自然」に選ばれるのだ。

それというの、あらゆる人が、

この間、「あなたの隣にも過激派が!」「不審な人物を知っている!」「善い市民のふりをして(過激派の)活動しているかも」といったキャンペーンが、繰り返してはられている。

日常的な弾圧は、アパートや下宿への聞き込み、上記の「過激派」キャンペーンと常に連動している。運動のシンパサイザーへの機がらせやスパイ強要だけでなく、運動とは関係がない人々へあなたかもしれない!への警察に対する情報提供、協力を「自然」な形で押しつけてくるのである。

「過激派」狩りの『善意の協力者』・『無邪気な権力の共犯者』として、変革を求めより自由に生きていく自らの人未来を自ら縛り殺していくことを「自然」に選ばれるのだ。

それというの、あらゆる人が、

この間、「あなたの隣にも過激派が!」「不審な人物を知っている!」「善い市民のふりをして(過激派の)活動しているかも」といったキャンペーンが、繰り返してはられている。

日常的な弾圧は、アパートや下宿への聞き込み、上記の「過激派」キャンペーンと常に連動している。運動のシンパサイザーへの機がらせやスパイ強要だけでなく、運動とは関係がない人々へあなたかもしれない!への警察に対する情報提供、協力を「自然」な形で押しつけてくるのである。

「過激派」狩りの『善意の協力者』・『無邪気な権力の共犯者』として、変革を求めより自由に生きていく自らの人未来を自ら縛り殺していくことを「自然」に選ばれるのだ。

それというの、あらゆる人が、

この間、「あなたの隣にも過激派が!」「不審な人物を知っている!」「善い市民のふりをして(過激派の)活動しているかも」といったキャンペーンが、繰り返してはられている。

日常的な弾圧は、アパートや下宿への聞き込み、上記の「過激派」キャンペーンと常に連動している。運動のシンパサイザーへの機がらせやスパイ強要だけでなく、運動とは関係がない人々へあなたかもしれない!への警察に対する情報提供、協力を「自然」な形で押しつけてくるのである。

「過激派」狩りの『善意の協力者』・『無邪気な権力の共犯者』として、変革を求めより自由に生きていく自らの人未来を自ら縛り殺していくことを「自然」に選ばれるのだ。

それというの、あらゆる人が、

京都国体へ向けた治安管理強化

大学当局の弾圧容認を許すな

め弾圧のもつ政治的意味と社会的意味との二面から考えてみる。

まず、政治的意味としては、今回の機動隊・公安の動向から今秋の京都国体をにらんだ治安管理の強化が見取れる。六・二三に登場した公安も機動隊も、今年の秋には「陸下」(その時にはくたばった可能性が高いが)や「殿」の警備に、まず間違いなくつなげられていく。

昨年の日本の赤軍を口実とし、全学的な方針入れ(判明しているだけで約二六〇カ所)を思い起すまでもない。

「テロリストの友人」・「テロリストの支援者」・「テロリストの支那のそのまた支援者」

め弾圧のもつ政治的意味と社会的意味との二面から考えてみる。

まず、政治的意味としては、今回の機動隊・公安の動向から今秋の京都国体をにらんだ治安管理の強化が見取れる。六・二三に登場した公安も機動隊も、今年の秋には「陸下」(その時にはくたばった可能性が高いが)や「殿」の警備に、まず間違いなくつなげられていく。

昨年の日本の赤軍を口実とし、全学的な方針入れ(判明しているだけで約二六〇カ所)を思い起すまでもない。

「テロリストの友人」・「テロリストの支援者」・「テロリストの支那のそのまた支援者」

め弾圧のもつ政治的意味と社会的意味との二面から考えてみる。

まず、政治的意味としては、今回の機動隊・公安の動向から今秋の京都国体をにらんだ治安管理の強化が見取れる。六・二三に登場した公安も機動隊も、今年の秋には「陸下」(その時にはくたばった可能性が高いが)や「殿」の警備に、まず間違いなくつなげられていく。

昨年の日本の赤軍を口実とし、全学的な方針入れ(判明しているだけで約二六〇カ所)を思い起すまでもない。

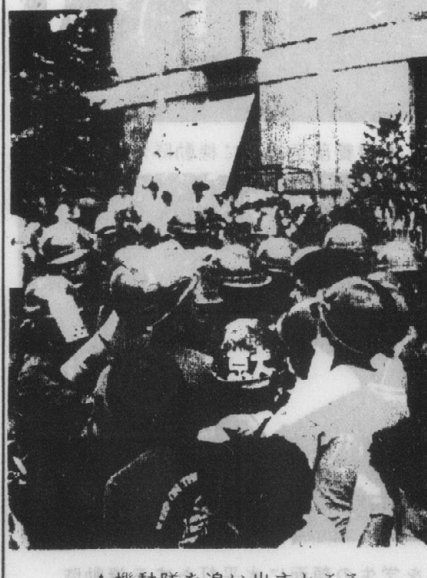
「テロリストの友人」・「テロリストの支援者」・「テロリストの支那のそのまた支援者」

め弾圧のもつ政治的意味と社会的意味との二面から考えてみる。

まず、政治的意味としては、今回の機動隊・公安の動向から今秋の京都国体をにらんだ治安管理の強化が見取れる。六・二三に登場した公安も機動隊も、今年の秋には「陸下」(その時にはくたばった可能性が高いが)や「殿」の警備に、まず間違いなくつなげられていく。

昨年の日本の赤軍を口実とし、全学的な方針入れ(判明しているだけで約二六〇カ所)を思い起すまでもない。

「テロリストの友人」・「テロリストの支援者」・「テロリストの支那のそのまた支援者」



▲機動隊を追い出すところ